



令和元年・2年度 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業
令和元年・2年度 山田町教育委員会指定

山田町立豊間根小学校 学校公開研究会

I 研究主題の設定について

校訓「豊かな心」

学校教育目標「心豊かな子・よく考える子・ねばり強くやりぬく子」

本校児童の実態から

研究を通して目指す児童像

自分の伝えたいことを相手に伝えられる児童
友だちの伝えたいことを聞くことができる児童

研究主題

外国語で主体的に表現しようとする児童の育成
～児童が表現したいことに寄り添う指導を通して～

新学習指導要領から

外国語活動の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することを目指す。

外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す。

Ⅱ 研究内容

目指す児童像に近づくための授業づくり

学習到達目標 (CAN-DOリスト形式)の 作成と活用

作成の目的

指導者と児童が、単元の目標や学習内容を共有し、活用するため。
(外国語活動ではTRYリストを作成)

作成のメリット

- 指導者が、児童が、
- ① 既習表現の確認ができる。
 - ② 学年末の姿をイメージできる。
 - ③ 2学年分の系統性を見通すことができる。

具体的な活用場面

- ① 単元の導入場面
単元のゴールの確認
- ② 単位時間の学習の中
既習表現のふりかえり
- ③ 単元末
次単元、Projectの活動までの見通し
- ④ 評価への活用
評価場面・方法の見通し

児童の思いに 寄り添う指導

必然性のある 言語活動の設定

単元の Final goal として
「相手意識(だれに)」
「目的意識(なにを)」
の明確な言語活動を設定する。

2つの「よりそい」

「よりそいスタート」
児童の学習に対する意欲を高め、表現したい気持ちを引き出す「よりそい」

- ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識した単元のゴールとなる言語活動の設定
- ・Small talk(既習事項を活用したモデルの提示) 他

「よりそいブラッシュアップ」
表現したいけれど何と言ったらよいかわからない、伝えたいのに伝えられないという思いへの「よりそい」

- ・Response・Questionの言い方のモデル提示
- ・児童がCAN-DOリスト、TRYリストを活用する視点の提示 他

研究内容Ⅰ 学習到達目標（CAN-DO リスト形式）の作成と活用

① 5・6年の学習到達目標（CAN-DO リスト形式）作成の手順

- ☒ 学習指導要領に示されている目標と使用する教材を照らし合わせる。
 - ☒ コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識しながら単元のゴールとなる言語活動を決める。
(児童と共有できるように。) その際、以下についても考えながら単元のゴールとなる言語活動を決める。
- * 「話すこと[やり取り]」・「話すこと[発表]」のどちらの領域をねらうか。

* 決めた領域目標の項目（アイウ）のどれをねらうか。
- * 「聞くこと」・「読むこと」・「書くこと」の各領域別の目標の項目（アイウ）のどれをねらうか。
- ☒ 他教科等との関連を考える。
 - ☒ 領域別の目標の全体を見て、年間のバランスや、学期ごとのバランスを調整する。
 - ☒ 年間指導計画を基に、CAN-DO リストに各単元の目標と単元名を入れる。
 - ☒ 最終調整をする。

② 児童と共有するCAN-DOリスト

	5 年生	6 年生
聞くこと	♪自己紹介や誕生日について聞いて、簡単な語句を聞き取ることができる。	♪なりたい職業やその理由について聞いて、簡単な語句を聞き取ることができる。
	Lesson 1 Nice to meet you.	Lesson 10 I have a dream.
	Lesson 2 When is your birthday?	
	♪できることやできないこと、クイズの指示、宝物の種類やありかについてくわしく聞き取ることができる。	♪友だちの自己紹介、一日の生活の時刻、夏休みの思い出、好きなスポーツなどの具体的な情報を聞き取ることができる。
	Lesson 4 Can you do this?	Lesson 1 We are friends.
	Project 1 パーティーを楽しもう	Lesson 2 What time do you get up?
	Lesson 5 Where is your treasure?	Lesson 6 My Summer Vacation.
		Lesson 8 What sport do you like?
	♪時間割やヒーロー、十二支、町しょうかい等の話のたいたいが理解できる。	♪友だちのツアープランや日本のおすすめ、物語やお話のたいたいを聞き取ることができる。
	Lesson 3 What do you have on Mondays?	Lesson 3 Where do you want to go?
	Lesson 6 My Hero	Project 1 世界で活躍する日本人を紹介しよう
	Lesson 7 Happy New Year	Lesson 7 See the world.
	Lesson 9 I love my town.	Lesson 9 My Favorite Memory.
		Project 2 感謝の気持ちを伝えよう

5・6年児童と共有する「CAN-DO リスト」の一部。領域ごとに整理してある。それぞれの学年のどの単元で、どのような学習をしたのか、これからどのような学習をしていくのかが分かりやすい。

また、それぞれの1年間の学習内容を見通すことができるので、学年末に自分がどんなことが言えるようになっているのか、分かるようになっているのかというイメージを持つこともできる。

③ 年間指導計画を含むCAN-DOリスト

年間指導計画を含む CAN-DO リストの一部。左側が年間指導計画、右側が学習到達目標となっている。

第6学年 年間指導計画（本校学習到達目標と各単元との関連付け）											
年間指導計画（開隆堂 Junior Sunshine）					学習到達目標（CAN-DOリスト形式）					参考	
6年	単元名	題材	主な言語材料	他教科との関連	Let's Try (GOAL)	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと	教科書に記載の「CAN-DOマップ」
Lesson1	We are friends. (2時間)	クラスの輪を広げよう。	復習		友だちとの共通点をクラスの中でさがそう。	自己紹介を聞いて、簡単な語句を聞き取ることができる。（ア）	小文字の読み方を確認することができる。（ア）	友だちや新担任と物怖じしないで、挨拶をしたり、応じたりすることができる。（ア）		自分の名前にあるアルファベットを小文字で書くことができる。（ア）	たくさんの友だちと自己紹介ができる。
Lesson2	What time do you get up? (6時間)	自分の一日をしようかい。	What time do you? 社		自分の一日をしようかい。 ①上の表に自分の一日の生活の時刻を書いて発表しよう。 ②友達の前を聞いて、上の表に名前と時刻を書こう。	一日の生活の時刻を聞き取ることができる。（イ）	世界の都市や一日の生活についての表現の意味がわかるようにする。（イ）		基本的な表現を用いて、友達に一日の生活の時刻を話すことができる。（ア）		自分の一日を発表することができる。
Lesson3	Where do you want to go? (6時間)	ツアープランナーになろう。	Where do you want to go? Why? 社		ツアープランナーになって、おすすめのツアープランを紹介しよう。	友だちのツアープランの概要を聞き取ることができる。（ウ）	国名を表す語句の意味がわかるようにする。（イ）	友だちや先生方にツアープランナーになって、おすすめのプランを紹介し合ったり、質問したり、質問したいことを質問したり答えたりすることができる。（ウ）		国名を書き出すことができる。（ア）	おすすめのツアープランをしようかいることができる。
Lesson4	Welcome to Japan. (6時間)	日本のことをしようかい。	Welcome to Japan. We have. Please. 社		日本のことをしようかい。	友だちが話す日本のおすすめについて、簡単な語句を聞き取ることができる。（ア）	日本の有名な場所や食べ物に関する語句の意味がわかるようにする。（イ）		ALTやオランダの方に日本のよいところを相手に分かりやすいように整理して話すことができる。（イ）	教科書の例文を参考に、紹介カードを書くことができる。（イ）	日本のことをしようかいることができる。

見直し

作成当初の CAN-DO リスト

年度当初は、各単元3～4領域について評価することとしていた。

しかし、実際には、一単元の中でCAN-DOリストにある領域を評価しきことは難しいということが分かった。さらに、言語活動の設定についても、学級の実態に合わせて、変更が必要な部分も出てきた。

第6学年 年間指導計画（本校学習到達目標と各単元との関連付け）											
年間指導計画（開隆堂 Junior Sunshine）						学習到達目標（CAN-DOリスト形式）					
学期	6年	単元名	題材	主な言語材料	他教科との関連	Let's Try (GOAL)	聞くこと	読むこと	話すこと（やり取り）	話すこと（発表）	書くこと
1学期	Lesson1	We are friends. (2時間)	クラスの輪を広げよう。	復習		友だちとの共通点をクラスの中でさがそう。	友だちが自己紹介している内容を聞き取ることができる。（イ）		友だちや新担任と物怖じしないで、あいさつをしたり、応じたりすることができる。（ア）		
	Lesson2	What time do you get up? (6時間)	自分の一日をしようかいしょう。	What time do you? ”	社	自分の一日を英語で発表しよう。	一日の生活の時刻を聞き取ることができる（イ）	何時に何をやるのかの簡単な表現の意味が分かるようにする。（エ）		基本的な表現を用いて、友達に一日の生活の時刻を話すことができる。（ア）	
	Lesson3	Where do you want to go? (6時間)	ツアープランナーになろう。	Where do you want to go? Why? ”	社	ツアープランナーになって、おすすめのツアープランを英語で紹介し合おう。	友だちのツアープランの概要を捉えることができる。（ウ）		友だちや先生方にツアープランナーになって、おすすめのプランを紹介し合ったり、質問したいことを質問したり答えたりすることができる。（ウ）		国名を書き出すことができる。（ア）
	Lesson4	Welcome to Japan. (6時間)	日本のことをしようかいしょう。	Welcome to Japan. We have Japan. Please. ”	社	身近な人に、自分たちの住む地域のことを英語で紹介しよう。		日本の有名な場所や食べ物を表す語句の意味が分かるようにする。（イ）		身近な人に日本のよいところを相手に分かりやすいように整理して話すことができる。（ウ）	
	Lesson5	I want to see the Milky Way. (4時間)	夏休みの計画を立てよう。	I want to see the Milky Way. ”	理国	夏休みにしたいことを家の人に英語で伝えよう。		夏休みにしたいことを表す語句の意味が分かるようにする。（イ）			

見直し後の CAN-DO リスト

評価領域を見直し、学習到達目標の太枠部分を「記録に残す評価」とし、それ以外の部分を、記録には残さないが、目標に向けて指導は行う領域とした。

各単元、評価領域は多くても3領域とし、無理なく評価ができるようにした。

④ CAN-DOリストの評価への活用

単元の計画を立てる際には、このリストを見ながら、どの領域の評価単元となっているかを確認し、授業づくりをした。

評価領域や言語活動によって評価の方法をその都度選択

① ビデオ撮影による評価

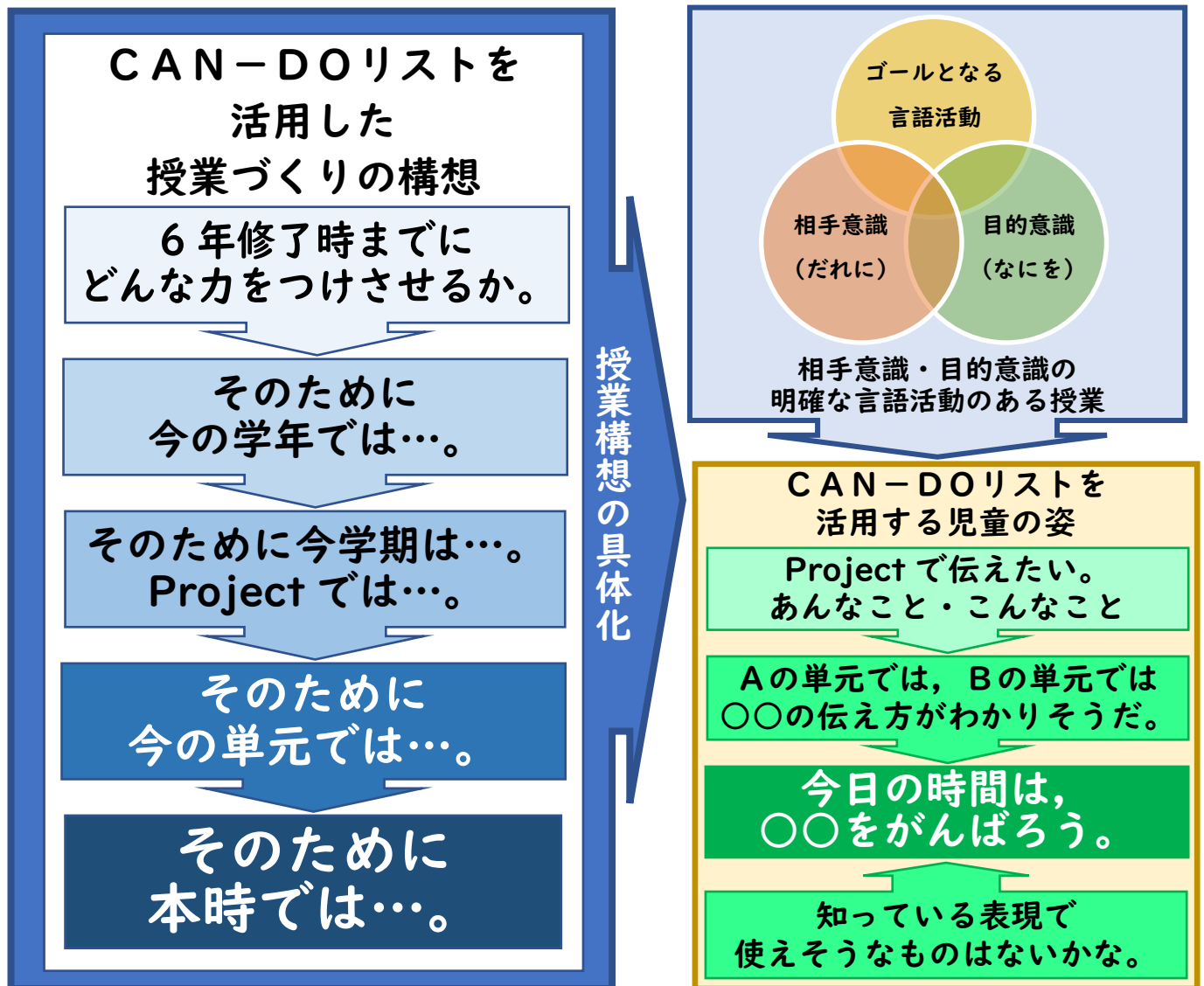
③ ワークシートによる評価

② 観察による評価

④ インタビューなどの相手になったの評価

3・4年生についてはTRYリストで評価場面を確認し、学習中の様子を見ながら、学習が深まった場面や主体的な活動の様子が顕著に見られた場面を記録に残し、評価した。

研究内容 2 児童の思いに寄り添う指導



CAN-DOリストを用いて授業づくりをすることは、ゴールの姿となる到達目標から逆算して考える「バックワード・デザイン」を意識した授業構想を行うこととなる。このことで、指導者は単元末における児童の姿が明確にイメージできる。

次に、児童が主体的に「伝えよう」という思いをもって活動に取り組むためには、言語活動のゴールに工夫が必要である。児童が主体的に「伝えよう」と思う言語活動には「相手意識」と「目的意識」が欠かせない。

本校では、児童が主体的に参加できるよう、「学習に対する意欲を高め、表現したい気持ちを引き出すための手立て」を「よりよいスタート」、実際の学習場面で「表現したい、伝えたい気持ちに寄り添う手立て」を「よりよいブラッシュアップ」とし、授業実践を行ってきた。

外国語活動実践例(3年生)

単元名 “How many” ～数えて遊ぼう～
 Final goal 「6年生と How many ゲームをしよう」

3年生にとって英語の大先輩である「6年生」を相手に How many ゲームをすることを目的とすることで、6年生との活動までに、“How many～”をたくさん使って積極的に活動する姿が見られた。最後の6年生との活動を行う際には、“How many～”を使って多くの6年生と自信をもってやり取りをすることができた。



「よりよいスタート」

やり取りのモデルを見せている場面。これから行う How many ゲームを実際に行って見せ、やり方を共有する。「自分もできそうだ」という気持ちをもたせた。

「よりよいブラッシュアップ」

中間振り返りの様子。やり取りの中で、相手に伝わるような工夫ができてきている児童などを紹介し、全体で共有することで、よりよいやり取りができるようにした。



外国語活動実践例(4年生)

単元名 “What time is it?” ～自分の好きな時間を伝えよう～
 Final goal 「家の人に夏休みの生活時間と、好きな時間を伝えよう」

夏休みの生活時間について、実行の決意を込めながら家の人に伝えることで、これまでの外国語活動の学習の成果を見てもらおうという目標をたて、学習を進めた。相手が「家の人」とはっきりしていることと、目的の一つが「学習の成果を見せる」としていることもあり、何度も言い方を友だちと確認し合う様子が見られた。

「よりよいスタート」

授業のはじめに Final goal (言語活動のゴール) の再確認を行った。誰に、何の目的でこの活動を行うのかを常に確認することで、主体的に学習に取り組めるようにする。



「よりよいブラッシュアップ」

起床、就寝などの生活時間がかかるイラストをワークシートにして配布した。絵を示すことで相手にも伝わりやすく、伝える側も不完全な英語でも大丈夫という気持ちで活動できるようにした。



外国語科実践例(5年生)

単元名 “Can you do this ?” ～プロフィールカードを作ろう～

Final goal 「プロフィールカードを作ろう。」

学校が統合して約2か月の時期に実施した。今よりもより深く友達のことを知り、仲を深めることを目的として、自分のできることや、得意なことを紹介するというゴールを設定した。活動後は「友達のことによって新しい発見もあった。」という児童からの振り返りがあった。やり取りを重ねることにより児童が主体的に活動することができていた。



「よりそいスタート」

「できること」を伝え合うための導入として、「can」を学習する場面でけん玉を活用した。担任がけん玉の技ができるかできないかを「can」「can't」で児童に問うなど、楽しみながら学習を進められるようにした。

「よりそいブラッシュアップ」

発表場面で自分の伝えたいことを、より分かりやすく相手に伝えるために写真等を相手に見せながら活動できるようにカードを活用し、「相手に伝える」ことを意識した活動につなげた。



外国語科実践例(6年生)

単元名 “Welcome to Japan.” ～日本のことをしょうかいしよう～

Final goal 「オーストラリアの方に自分たちの住む地域のことをしょうかいしよう」

教科書の単元と関連させて、日本のことを外国の方に伝えるという言語活動を設定した。同じ年頃のオーストラリアの子どもをやり取りの相手としたこともあり、本校の6年生も「何を伝えようよいか。」「こんなことを伝えたい。」などと、積極的に活動に取り組む児童が多くみられた。

「よりそいスタート」

今日の学習でどんなことをするのかのイメージをもたせることで、「できそう。」「やってみよう。」という気持ちをもたせた。



「よりそいブラッシュアップ」

児童が話したいけれど何と言ったらよいか分からないという事柄を、学級全体で共有しながら、どのように言ったらよいかを考えた。こうすることで、既習を使えばどうにかできそうだということに気が付き、少しずつではあるが、分からなくても話してみようという自信をもってやり取りができるようになった。



複数単元のまとめとしての言語活動 (Project) 実践例

5、6年生については、複数単元での学習のまとめとなる活動を設定することとした。教科書の Project 単元に合わせて、児童が半年間外国語を学習してきた成果を発揮する場を設定し、外国の方と交流する活動を取り入れた。

5 年生

「English パーティー」



6 年生

「世界で活躍する日本人を外国の方に伝えよう」



準備の段階から、相手を意識して内容を考える児童の姿が見られたことや、実際の活動の中でも、外国の方からの質問にどうにかして伝えようとする姿も多くみられた。このことから、「相手意識」「目的意識」がはっきりしていて、なおかつそれが児童の実態に合ったものであればあるほど児童は主体的に学習に取り組むことが確認できた。

Ⅲ 成果と課題

- 相手、目的を意識させることで、児童に「伝えたい」という気持ち生まれ、主体的に活動できる場面が多くなった。
- CAN-DOリストを作成したことで、指導者が各学年の既習表現等を確認しやすくなった。
- CAN-DOリストを活用することで、単元計画を立てやすくなった。
- △評価場面や、評価方法については、不十分な点が多々ある。
特に、やり取りの場面の評価について、その時間の中で児童の様子をみとるための方法や工夫について、さらに、研究を進める必要がある。
- △児童の思考が働く場面を増やすために、今までよりもいっそう児童が既習表現を使用して話す場面を設けられるようにしたい。
(Small Talk の有効活用等)